

〔第9回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

**老化・老年病研究を支える
実験動物管理室のミッション
—動物実験の再現性向上と動物福祉—**

実験動物管理室
小木曾 昇 室長

**2016年5月10日(火) 16時30分
第1研究棟2階大会議室**

Nature誌（2013年8月1日号）に「医学生物論文の70%以上が再現できない」という衝撃的なニュース記事が掲載された。動物実験の再現性向上のためには、研究目的に応じた動物の選択（種、系統、性別、年齢（週齢）、体重等）はもとより、適切な実験動物管理を行った上で適正な動物実験を実施することが肝要である。NCGGでは老化・老年病モデルとなる遺伝子組換えマウスの他、エイジングファーム動物（AF動物）を長期育成している。特にAF動物において、加齢に伴う疾患の発症（頻度、時期）や寿命が飼育環境に依存して変化する可能性を示唆するような事例が散見されており、これらの影響は実験結果のバラツキの原因となることが予想され、実験の再現性を確認する上で無視できない。実験動物管理室では、AF動物の生理学的な基礎データの蓄積が老化メカニズムの解明やフレイル等のモデル動物の開発にも繋がると考え、形態学的手法をはじめとして様々な解析を行っており、動物福祉に配慮しAF動物の育成に適した飼育環境についても合わせて検討している。本会ではAF動物を中心とした基礎データの進捗状況の他、実験動物管理室で行っている発生工学技術等の研究支援に関しても紹介したい。

座長：竹下 淳